

研究拠点形成事業 平成25年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 (※)
(※ 該当しない交流形態を削除してください。)

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	早稲田大学
(カンボジア) 拠点機関：	プノンペン王立芸術大学
(ベトナム) 拠点機関：	フエ大学
(ラオス) 拠点機関：	ラオス国立大学
(タイ) 拠点機関：	シラパコーン大学
(ミャンマー) 拠点機関：	文化省

2. 研究交流課題名

(和文)： メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成

(交流分野： 文化財科学)

(英文)： Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries

(交流分野： Heritage Science)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.lah-waseda.jp>

3. 採用期間

平成25年4月1日 ～ 平成28年3月31日

(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：早稲田大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：早稲田大学・総長・鎌田薫

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：早稲田大学理工学術院・教授・中川武

協力機関：東京大学、奈良文化財研究所、東京文化財研究所

事務組織：早稲田大学国際部国際課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：カンボジア

拠点機関：(英文) Royal University of Fine Art

(和文) プノンペン王立芸術大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture and Urbanism ・ Dean (Professor) ・ CHHING Chhommony

協力機関 : (英文) APSARA Authority (Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)

(和文) アプサラ機関

(英文) Cambodian Mekong University

(和文) メコン大学

(英文) Ministry of Culture and Fine Arts

(和文) 文化芸術省

(2) 国名 : ベトナム

拠点機関 : (英文) Hue University

(和文) フエ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Department of Architecture, Hue University of Science ・ Lecturer ・ NGUYEN Tu Nhu

協力機関 : (英文) Hue Monuments Conservation Center

(和文) 古都フエ遺跡保存センター

(3) 国名 : ラオス

拠点機関 : (英文) National University of Laos

(和文) ラオス国立大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture ・ Associate Professor ・ CHITHPANYA Soukanh

(4) 国名 : タイ

拠点機関 : (英文) Silpakorn University

(和文) シラパコーン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Archaeology ・ Associate Professor ・ SURAPOL Natapintu

協力機関 : (英文) Ubon Ratchathani University

(和文) ウボン・ラチャタニ大学

(英文) Ministry of Culture

(和文) 文化省

(5) 国名 : ミャンマー

拠点機関：(英文) Ministry of Culture

(和文) 文化省

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Archaeology, National Museum and Library・Director General・KYAW OO Lwin

協力機関：(英文) Yangon University

(和文) ヤンゴン大学

5. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコ世界遺産には現在約 900 件のサイトが記載されている。185 ヶ国にのぼる条約締結国数からも、最も成功した世界条約の一つといわれ、登録を目指す動きは加熱の一方で、アジア・アフリカ等の途上国や新しい考え方による遺産の記載は増加が予想されている。記載実現のためには、その固有の価値とともに、顕著な普遍的価値の証明や保護体制の構築などが必要であり、また記載を目指す運動自体が、必然的に地球的広がりや人類史的な長期的視点からの遺産と地域の結びつきを見つめ直すきっかけとなる。記載後も遺産の保存活用のための人材育成が必要であり、多角的な国際協力体制の実現が求められている。環境・災害・食糧・資源・格差・紛争等の 21 世紀的世界の危機の深刻化の中で、遺産研究が地域や国の歴史文化の理解にとって不可欠であり、その保存・再生が疲弊した社会の復興の礎となり、人々の精神的一体性の源泉である公共空間回復に寄与すること、そして保護のための国際協調活動が、国際交流と平和構築に大きな役割を果たすことの期待がその背景にある。申請者らはこれまでにカンボジアやベトナムを中心として調査研究・保存・修復と、災害から地域や文化遺産を救済し、復興させることにより、高い評価を得た活動実績がある。これらの実績を基礎として、メコン川流域の諸国においてその地域的背景のもとに文化遺産の保存活用学を創成することを目標とする。同地域には、歴史・地理的背景を共有する多くの文化遺産保存事業サイト、そして将来的に世界遺産リスト申請の可能性のあるサイトやそれと同等の歴史的価値を有するサイトと密接かつ多角的な協力のもとに連携した本拠点を中心に国際的な教育研究のネットワークを構築し、高度な専門性と豊かな構想力を持ち、文化遺産の保存を核とした参加・持続型社会の構築を担う人材の育成を行おうとするものである。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 25 年度から開始

7. 平成 25 年度研究交流目標

※本事業の目的である「研究協力体制の構築」「学術的観点」「若手研究者育成」に対する今年度の目標を設定してください。また社会への貢献や、その他課題独自の今年度の

目的があれば設定してください。

本研究拠点形成事業が対象とする地域は、アジア・モンスーン地帯であり、近年発展がめざましいとはいえ、まだまだ発展途上国に位置づけられる。これらの国々は、ヨーロッパ的文化遺産の保存概念より、日本が長年培ってきた近代遺産のオーセンティシティ（真正性）を重視した上での、使いながら保存する考え方や技術が有効である。日本的な文化遺産保存活用学の蓄積を基礎として、多くの専門分野からなる複合領域を横断し、文化遺産を活用した社会発展に貢献し得る人材の育成を、平成 25 年度の研究交流を通しての共通目標としたい。具体的には、文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題に対する日本と各国拠点機関の二国間協力を基礎として、メコン川流域全体に共通して取り組むべき研究協力体制を同時に構築する。

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。それを学術的に明らかにするとともに、特に保存と活用の関係について、共通する考え方や手法について議論する中で、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築に向けて、相互協力の方向を集約したい。

上記の研究交流に若手研究者の参加を積極的に推進し、調査現場やセミナー等での議論、さらにフォーラム誌の発行を企画、そこへの投稿を通して、彼らの育成をはかりたい。同時にセミナー及びフォーラム誌の発行を中核として、各国の固有性と地域の共通性の課題について、各々の社会に意識を高めることを今年度の目標とする。

8. 平成25年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成 (英文) Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 中川武・早稲田大学理工学術院・教授 (英文) NAKAGAWA Takeshi・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (カンボジア) CHHING Chhommony・Faculty of Architecture and Urbanism, Royal University of Fine Art・Dean (ベトナム) NGUYEN Tu Nhu・Department of Architecture, Hue University of Science・Lecturer (ラオス) CHITHPANYA Soukanh・Faculty of Architecture, National University of Laos・Associate Professor (タイ) SURAPOL Natapintu・Faculty of Archaeology, Silpakorn University・Associate Professor (ミャンマー) Kyaw Oo Lwin, Department of Archaeology, National Museum and Library, Ministry of Culture・Director General				
参加者数	日本側参加者数	10名			
	(カンボジア) 側参加者数	3名			
	(ベトナム) 側参加者数	3名			
	(ラオス) 側参加者数	1名			
	(タイ) 側参加者数	3名			
	(ミャンマー) 側参加者数	2名			
25年度の 研究交流活動 計画	日本側コーディネーターが各国の中心的課題である文化遺産の現場を、当該国コーディネーターと共同で調査し、各々の問題点を明らかにする。以上の成果を総合するための国際ワークショップを、平成26年3月に、東京・早稲田大学にて行う。				
25年度の研究交 流活動から得られ ることが期待され る成果	「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」の研究課題の各国個別の具体的な課題を明示する。その成果を持ち寄って日本においてワークショップを開催し、共通の課題を解決するための協力体制を構築し、ロードマップを作製する。				

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成のための主要課題」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “ Major Issues on Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries “
開催期間	平成26年3月10日 ~ 平成26年3月12日 (3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、東京、早稲田大学小野梓記念講堂 (英文) Japan, Tokyo, Waseda University, Azusa Ono Memorial Hall
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 中川武・早稲田大学理工学術院・教授 (英文) NAKAGAWA Takeshi・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 <人/人日>	20/ 60	50
カンボジア <人/人日>	2/ 10	
ベトナム <人/人日>	2/ 10	
ラオス <人/人日>	1/ 5	
タイ <人/人日>	2/ 10	
ミャンマー <人/人日>	2/ 10	
合計 <人/人日>	29/ 105	50

参加者数

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

セミナー開催の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・メコン川流域国における文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。 ・その保存活用のための学術研究上の課題の現状。 ・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。 ・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。 <p>以上の問題を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>		
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・メコン川流域の各国における文化遺産の歴史的・基礎的学術研究上の現状と問題点が具体的な代表例を通じて明らかになる。 ・メコン川流域国に共通する文化遺産の保存活用に関連する学術上の課題が明らかになる。 <p>以上の課題の解決のための各国の協力体制と方法の可能性が明らかになる。</p>		
セミナーの運営組織	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および理工学術院建築学科中川武研究室がその緊密な協力のもとに担当する。</p>		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	金額
		外国旅費	2,000,000
		備品・消耗品購入費	100,000
		その他経費	200,000
		外国旅費・謝金等に係る消費税	150,000
		合計（円）	2,450,000
	() 側	内容	
	() 側	内容	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成 25 年度は実施しない

9. 平成25年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人/人日〉	カンボジア 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	ラオス 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	ミャンマー 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		2/10 ()	2/10 ()	2/10 ()	2/10 ()	2/10 ()	10/50 (0/0)
カンボジア 〈人/人日〉	2/10 ()		()	()	()	()	2/10 (0/0)
ベトナム 〈人/人日〉	2/10 ()	()		()	()	()	2/10 (0/0)
ラオス 〈人/人日〉	1/5 ()	()	()		()	()	1/5 (0/0)
タイ 〈人/人日〉	2/10 ()	()	()	()		()	2/10 (0/0)
ミャンマー 〈人/人日〉	2/10 ()	()	()	()	()		2/10 (0/0)
合計 〈人/人日〉	9/45 (0/0)	2/10 (0/0)	2/10 (0/0)	2/10 (0/0)	2/10 (0/0)	2/10 (0/0)	19/95 (0/0)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

6/12 〈人/人日〉

10. 平成25年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	200,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,400,000	
	謝金	600,000	
	備品・消耗品購入費	1,000,000	
	その他の経費	350,000	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	250,000	
	計	6,800,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		680,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		7,480,000	